



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2024～2025 年度 テーマ

プロバスだよ

第351号

2025 年 2 月 13 日発行

編集・発行 情報委員会

語り合いたい場、語れる場、学び高まる場

第 351 回例会

日 時 令和 7 年 1 月 16 日 (木) 12:00～12:30

場 所 八王子エルシィ

出席者 26 名 出席率 76%

(会員総数 38 名、欠席 8 名、休会 4 名)

1. 開 会

岩島例会委員長

第 351 回例会の開催を告げ、配付資料の確認が行なわれた。

2. 会長挨拶

塚本会長

新年明けましておめでとうございます。皆様のご協力、ご支援により半年間を歩むことが出来ました。後の半年間もよろしくお願いいたします。皆様お一人お一人が良いお正月を迎えられたことと思います。今年度も東京八王子プロバスクラブへの皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。本日の出席者は 26 名です。ご出席有難うございます。



昨年の 12 月 13 日 (金) に初宿市長より私へ直接電話がありました。「ふれあいトーク」の時に出了た「冠」の話についてでした。「活動内容を見、教育委員会等からの推奨、奨励、協賛について検討する方向で」と教育長とも話をしましたので、連絡を取り対応をしてくださいと話を頂きました。早速、プロバスクラブの代表として、このような願いを働きかけた杉山会員に連絡をしました。

昨年の 12 月 20 日 (金) にお招きを受けておりました、埼玉県行田市の浮き城プロバスクラブの例会に伺ってまいりました。参加者は田中交流担当、持田会員、斎藤会員、私の 4 人で行ってまいりました。

例会の持ち方も異なり良き体験となりました。東京八王子プロバスクラブのこれからの例会に活かしていきたいと思います。

悲しいお知らせですが、昨年の 12 月 25 日 (水) に井上克会員がご逝去されました。例会委員として進行役を務めている姿が目につかびます。お通夜には岩島会員、有泉会員、斎藤会員、塚本が参列し、八王子プロバスクラブからの弔意を示すお香典を供えました。告別式には池田会員が参列いたしました。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。弔意を表す時間を持ちたいと思いますので全員で黙とうをいたします。

本日の例会も「語り合いたい場、語れる場、学び高まる場」になることを願っています。

3. ハッピーコイン披露

一瀬副会長からハッピーコイン 17 件の披露がありました。(4～5 ページに掲載)

4. バースデーカードの贈呈

1 月生れの河西成幸会員、大野教子会員、土屋三千代会員に池田ときえ会員手作りのバースデーカードが贈られました。



左から 土屋三千代会員、会長、河西成幸会員
大野教子会員

5. 幹事報告

齊藤幹事

明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

早速の会費の値上げで今日は半期分の会費を納めて頂きました。ちょっと懐に響きますね。

会員の退会・休会もあり、人数的には寂しくなりました。

楽しく元気な東京八王子プロバスクラブになるようにとの願いを込めて、令和7年、年の始めを寿ぎ例会を楽しんでください。

6. 各委員会からの報告

(1) 例会委員会

岩島委員長

本日の出席者は26名、欠席者は8名、休会者は4名で、出席率は76パーセントです。現在の会員数は38名です。

(2) 地域奉仕委員会

持田委員長

・音楽祭のチラシができました。全員に配布、今回は2,000部作成しました。

各学校関係者とプロバスクラブにて使用します。一般向けには会場の座席数に限りがあるため、配布は予定しておりません。

・当日のクラブ会員の役割分担ですが、会員の退会などの減少により、役割分担が変わるところがあります。一人当たりの役割が増えますのでご了承ください。

・1月21日に各出演校の音楽担当責任者に集まっていただき、事前説明会を南大沢文化会館で開催予定です。畑野先生・立川会員・馬場副地域奉仕委員会副委員長、それに私の4人で対応します。

以上、よろしくお願いします。

(3) 交流担当

田中理事

12月20日に「埼玉浮き城プロバスクラブ」から例会・忘年会へのお招きがあり、塚本会長、持田会員、齊藤会員、田中の4名で伺いました。

新年懇親会

12:35～15:00

新年特別卓話

今月の卓話は、新年特別卓話として「大久保長安の会」の会長である鈴木泰先生にお願い致しました卓話に入る前に「大久保長安の会」について説明します。

大久保長安の会は、2012年4月に設立された団体で、事務局を八王子市小門町82「産千代稻荷神社内」に置き、活動目的は「戦国時代末期から江戸時代初期にかけて、全国的に活躍し、八王子の町づくりに大きく貢献した大久保石見守長安の調査研究を行い、その業績を市民はじめ多くの人々に知らせて長安を再び歴史の表舞台に浮上させ、町おこしに貢献すること」を目的とする。活動内容は「長安の事績の掘りおこし、調査研究を促進、講演会、町あるき、座学、昔語りなどのイベントを企画・実施、400年遠忌祭を通じてつながった長安ゆかりの地と相互に連携、4月25日大久保長安祭の実施、書籍の発行、マップ頒布等で大久保長安の業績を広く知ってもらう活動」として、八王子コミュニティ活動応援サイト「はちコミねっと」（市民活動推進部協働推進課が管理）に紹介されています。

また、鈴木泰先生は「江戸時代の浅川治水と八王子のまちづくり」（「水資源・環境研究」27巻2号）という論文を発表しておられます。

なお、鈴木先生から長安に関する最新本の、定本大久保石見守長安―江戸幕府創成期を支えた総代官・年寄衆の功績―著者・和泉清司 発行・揺籃社（2024年2月25日発行）を紹介していただきました。読み応えのある書物でした。

鈴木先生に特別卓話の内容をまとめていただきましたので、それを以下に掲載いたします。

「大久保石見守長安の事績と佐渡金山」

大久保長安の会 鈴木 泰

現在の八王子市

は天正18年8月に徳川家康が北条氏に代わって、駿河や甲斐などから関東に移封された

時、大久保長安が元八王子にあった宿や市を現在の中心市街地とほぼ同じ場所に移転したことから始ま



っています。

同じ時代に関東地方には四人の代官頭がいましたが、その陣屋があったところに当時としては大きい町をつくり、江戸時代から現在まで持続的に発展して大都市となっているのは八王子だけです。

長安は、石見銀山、佐渡金銀山の奉行を務めました。ともにユネスコの世界文化遺産となっています。世界文化遺産を二つ作った人は世界中で長安だけ、その長安が家康の関東時代に 10 年間本拠地にしていたのが八王子でした。

今回は八王子や佐渡金山に加え、あまり知られていない奈良での事績、文化への功績などについて述べてみます。

1. 八王子の大久保長安

大久保石見守長安は大和（奈良）の猿楽師大蔵流の宗家に生まれ、初めは大蔵十兵衛と言ひ、父の大蔵太夫信安は武田信玄に仕えましたが、長安は猿楽師ではなく役人として出仕したようです。

猿楽師とは能・狂言・三番叟を演じる役者のことで、明治時代になって能楽協会ができて「能楽師」という呼び方に代わりましたが、江戸時代までは猿楽師が正しい呼び名でした。戦国時代から江戸時代を通じて能楽は「武家の式楽」とされて大名は競って猿楽師を召し抱えました。

(1) 甲斐から武蔵へ

武田家滅亡後大久保長安は徳川家家臣に仕えて民生を担当、家康の関東入国とともに八王子の横山陣屋(小門町)を拠点に関東十八代官と呼ばれる支配下の代官や手代を駆使して、青梅、高麗川、桐生などにも陣屋を設けて支配し、さらに上総、上野、下野までの広域で検地をおこなっています。

(3) 関ヶ原の合戦以降

慶長 5 年（1600）の関ヶ原の合戦では、木曾や東濃攻略に功績がありました。徳川家の支配地域拡大に伴い、石見・佐渡・伊豆などの鉱山開発や奈良・近江・美濃などの要衝を支配する奉行、街道や伝馬の整備、富士川舟運、江戸城などの築城、越後高田藩の家康六男松平忠輝の付家老などの要職を務めて、大名とならないまま家康の年寄衆（後の老中）となる異例の出世を遂げ、病気のため 69 歳の時に駿府で亡くなりました。

残念ながら没後に政争に巻き込まれて長らく罪人

扱いされ、さらに一家断絶となったため、その功績は一般には正當に評価されないままでした。

2 大久保長安と奈良

長安というと金銀山の奉行として有名ですが、それに先んじて奈良奉行として優れた手腕を発揮しました。

関ヶ原の合戦後、慶長 5 年 9 月に豊臣家に近い大名が支配していた大和国(奈良)を徳川家が接収し、最初の奉行として長安が赴任しました。長安は豊臣家や西国大名の影響力が残り、古くからの権威ある社寺の多い大和国で東大寺・興福寺や春日大社等古社寺の保護、正倉院御物の点検と保護、奈良の主要産業であった晒の流通や吉野林業の振興など、社寺行政や産業の発展に努めました。

3 石見銀山、佐渡金銀山そのほかの功績

慶長 6 年に石見銀山、8 年に佐渡金銀山支配を任せられますが、それまでの山師任せから幕府直営による資本の投入、新しい技術での採鉱や精錬事業の実施、鉱山町の整備などを実施して驚異的な増産に成功しています。

また、長安は佐渡では一国天領と呼ばれた島内全域を支配し、金銀山を支えた港湾の整備、民心の安定にも努め、文化面でも見るべきものがありました。猿楽師の常太夫と杵太夫ほか、囃子方・狂言方一行を連れてきて、能楽は金山のある相川地区から、島内各地へと広がっていき、その名残として 30 余りの能舞台が現存しています。また、大山祇(おおやまづみ)神社、春日神社などを勧請するとともに、木崎神社社殿の整備、松前(まつざき)神社の社殿整備と角倉素庵・狩野一雲・俵屋宗達合作の三十六歌仙扁額の寄進などを行っています。

(写真)は、「佐渡松前神社大久保長安寄進三十六歌仙扁額より在原業平」)

多摩でも青梅で石灰岩を焼かせて作った漆喰を運ぶために青梅街道を整備し、武蔵御嶽神社、六社宮(大國魂神社)の造営を行なっています。

近年になって各分野で研究が進むにつれて専門家



から長安は幕府草創期の財政の確立に大きく寄与したと評価されています。八王子の礎を築いた長安は、徳川幕府の草創期を支え、近世への扉を開いた人と言って良いのではないのでしょうか。

宴会

(1) 演芸

手品のボランティア活動をしておられる「高尾マジック」(上田叔江様、佐々木桂子様、松本正典様)の皆さんによる手品と踊りが披露されました。巧みな手さばきで繰り広げられる見事なマジックに驚き、愉快などじょうすくいをたのしみしました。ありがとうございました。



(2) ビンゴゲーム

新年特別卓話の鈴木泰先生、高尾マジックの上田叔江様、佐々木桂子様、松本正典様も加わっていただきビンゴゲームを楽しみました。

いくつになってもビンゴゲームは会を盛り上げます。待てど暮らせど「ビンゴにならない」方がつきものです。会員の皆さん方には有り余るほどの景品を持ち寄っていただきました。ビンゴゲームに対する熱意が感じられました。目星をつけた景品を持ち帰ることができましたでしょうか。

7. プロバス賛歌

起立・斉唱

8. 閉会挨拶

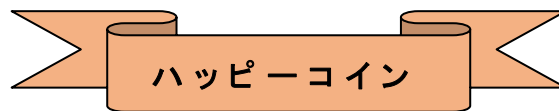
一瀬副会長

本日は新年の例会・懇親会ということで盛りだくさんのプログラムが組まれていました。

先ず、大久保長安に関する鈴木泰様の興味深い特別卓話では長安をもう一度見直す機会になりました

し、「高尾マジック」の手品芸にも大きな拍手が沸いていました。

また、ビンゴゲームではたくさんの商品に迷う場面も。それにしてもこんなに静かなビンゴも珍しいと感じました。これもわがクラブのキャラでしょうか。今年も健康で明るい1年にしたいものだと思います。を新たにしたところです。



◆あけましておめでとうございます。家族一同、元気に新しい年を迎えられ幸せでした。

有泉 裕子

◆1月14日、山梨の会社に新年になって初めて出社しました。青空に山並みがそれはきれいで、北岳、甲斐駒、八ヶ岳、槍ヶ岳、富士山は美しい。思わず「わぁ素敵！」を發しました。

飯田 富美子

◆穏やかな新年を迎えられたことと思います。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

飯田 富美子

◆新しい年、少しでも良いことがあればいいなあと願いつつ、鶴巻橋で初日の出 一瀬 明

◆年末、孫家族が久しぶりに八王子に。楽しいひと時を過ごした。ハッピー。 一瀬 明

◆私の従姉妹の上田淑江さんは仲間と組んで手品芸のボランティア活動をしており、今日これから行われる新年懇親会に出演のお願いをしたら、快く承諾してくれました。どんな芸を見せてくれるやら、楽しみです。 岩島 寛

◆久しぶりの出席です。なんとかこの世に戻ってきました。 河西 成幸

◆旧臘年末、私が入会推薦人の井上克会員が西方浄土へ旅立ちました。彼の全人格に敬意を表して、感謝と祈りを捧げます。 杉山 友一

◆今年のニューイヤー駅伝、旭化成が5年ぶりの優勝！ 新春から大いにハッピー！

田中 信昭

◆1月8日に初ひ孫が生まれました。1月13日には6番目の孫が成人式を迎え、ハッピーなお正月でした。 塚本 吉紀

- ◆①アメリカから娘夫婦と孫が来て、話が弾んだ。
②孫娘が子ども(ひ孫)を連れてやってきてひ孫と
楽しく遊んだ。 土井 俊玄
- ◆新しい年になりましたが、体調は相変わらず。今
年も少しずつ顔を出します。よろしく！
永井 昌平
- ◆快晴で雪をかぶった富士山の写真がきれいに撮れ
ました。よい年になることを祈っています。
橋本 鋼二
- ◆今年は年賀状がめっきり減りました。代わってス
マホ年賀状やパソコンメールでの年賀状が多くな
りました。手間はかかりますが、年賀状は続ける
つもりです。時代の変化の潮目が出ていることを
つくづく感じた正月でした！プロバスに HAPPY あ
れ！ 持田 律三
- ◆明けましておめでとうございます。暮れに娘家族
(4人)がシンガポールから一時帰国、一週間わが
家で過ごしました。現在私は4人暮らしの同居を
していますので、8人の生活をしました。孫息子
(中学生)がゴルフをシンガポールで始めましたの
で、息子、孫との三世代での念願ゴルフができま
した。良い年末年始でした。HAPPY！
持田 律三
- ◆河西さんが今日の例会で復帰されました。本当
に良かったです。 山本 通陽
- ◆正月から風邪をひいていた妻が治って、機嫌がよ
くなりました。ハッピーです。 山本 通陽

計 報



井上克会員が令和6年12月25日に逝去されました。井上会員は平成29年2月に本クラブに入会されました。本年度は例会副委員長を務められるなど当クラブの発展に尽力されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

井上克会員を悼む

杉山 友一

プロバスだより12月号(第349号)で、入会推薦人として故杉田信夫会員を偲んだばかりで、今度は井上克会員の訃報に接しました。思いもよらず

の出来事でした。11月の夕焼けの里での移動例会の折、少しばかり息苦しさを訴えられて、帰りには山本会員が相模原のご自宅までお送りした経緯がありました。この度は自転車での外出中に倒れられたということですが、些か残酷な現実には涙を禁じえません。

氏は、現役時代は警視庁本庁検死官として、かの歴史に刻まれた三島由紀夫事件の現場に立ち会い、大役を果たされた後、東村山警察署長に転じて、定年退職を機に八王子グランドホテル社長に就任、八王子とのご縁を深められてきました。そんな中で、長年警察関係各所との繋がりのある老生との交流も深まり、平成29年2月に当クラブにご入会を頂いた次第です。入会後はその穏やかなお人柄でクラブの諸活動にお力を頂いてきました。優しい笑顔が忘れられません。改めて深く感謝申し上げます。氏の口癖は「仕事柄多くの死体を見てきたが、死相はその人の人生の縮図、人間の生き様が覗けますよ」だった。私事ながら、老生も旧臘、家内がくも膜下出血で急逝したのだが、ドクターが検死確認の折、目に光を当てて、これほど澄んだ瞳も珍しい。この穏やかな表情は人生の立派なゴール、とお褒め頂いた時は些か安堵しました。井上会員の晩年もまた、何の憂いもなくプロバスライフを悠々と楽しんでおられたこと。また例会とは別に深谷会員が主宰する「教育を考える会」には毎回必ず出席をされて、警察畑の経験値から、こども教育への期待を込めて発言を繰り返されておりました。氏の穏やかな晩年に触れ合えたこと、8年間のプロバス仲間との交友に、重ねて御礼と感謝を申し上げてお別れと致します。末筆、重ねてご冥福をお祈り申し上げる次第です。



三毬杖(さぎちょう)

宮中での年中行事の一つとして、旧暦1月15日・18日に「三毬杖」と言われている行事があります。

宮中の庭に毬杖を三個を結んだものを置き、これに扇子や短冊などを掛けて陰陽師などに囃させて、これを焼く行事です。

民間では門松や七五三縄などを松の内終了後に神社などで焚きあげます。民間で行なわれている「どんど焼き」などと呼ばれている行事です。この行事



(古語辞典・旺文社刊)より

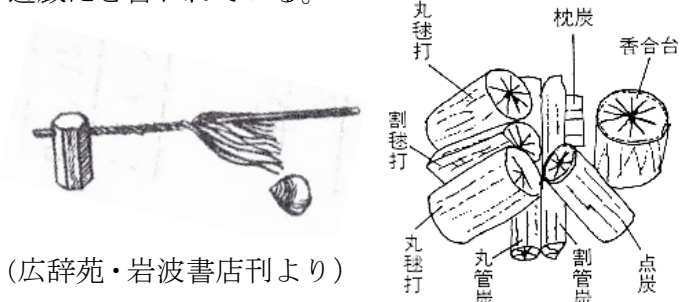
を「左義長」とも書きます。鎌倉時代頃に存在した行事だと言われております。

「つれづれなるままに ……」で始まる鎌倉時代の末期頃までに成立されたと言われている兼好法師の「徒然草」の第百八十段に次のように表現されています。

「さぎちやう」は、正月に打ちたる毬杖を、真言院より神泉苑へ出して焼き上げるなり。「法成就の池にこそ」とはやすは、神泉苑の池をいふなり。」

と書かれています。この記述から推測すると「さぎちやう」は正月に遊んだ「毬杖」の遊具を焚き上げる行事から来た名称ではないかと言われております。

毬杖という遊びは木製の毬を槌形の杖で打ち合う遊戯だと言われている。



(広辞苑・岩波書店刊より)

(茶の湯実践講座・淡交社刊より)

毬杖という言葉は、茶道でも使われています。炭点前で使用する名前で、胴炭・丸毬打・割毬打と呼ばれています。

この呼び名の発生は、茶人古田織部や小堀遠州の頃から名称や寸法などが生まれたと言われています。(語釈)

- ・真言院は内裏にあった朝廷の修法所。
- ・神泉苑は祈雨修法がしばしば行なわれたことを反

映して、神泉苑の池は法成就池と呼ばれた。

- ・毬杖は木製の毬を槌型の杖で打ち合う遊戯。
- ・「法成就の池こそ」は焼き上げる時の囃し言葉。

(雅)

俳句同好会便り

私の一句(十二月の句会から)

河合 和郎

俳句作りは知的作業の最たるものの一つ。五感を研ぎ澄ませて万物を観察する。そして十七文字にその思いを凝縮させる。今年も俳句作りで脳を活性化させる努力をしてゆきたい。

初暦先ずは書き込む句会の日 池田ときえ

心待ちにしている月一回の句会の日。新しいカレンダーに書き込む。今年も楽しく賑やかに。

診療所窓口飾る冬の薔薇 野口 浩平

ご夫婦で診療所通いとか。年を重ねるとこれが日常になる。待合室の薔薇に心癒される作者。

街路樹のイルミネーション冬の華 飯田富美子

電飾で飾られた街路樹は殊の外美しい。クリスマスや新年に向けて街は華やかに飾られる。

寄鍋の一家団欒老い二人 馬場 征彦

親子で賑やかだった食卓。新年は寄鍋などで特に賑やかだった。今は夫婦二人だけの静かな寄鍋。

すれ違ふテンの襟巻蔵の町 田中 信昭

作者の思い出の地倉敷。テンの襟巻を撒いた妙齡のご婦人とのすれ違い。遠い昭和の思い出。

生きている証となりぬ年賀状 石田 文彦

年々賀状の数が減ってくる。永の別れである。元気な友の賀状にほっとする。まだ元気だと。

早や一年壊れし町に北風荒れて 河合 和郎

能登の各地にはまだ壊れたままの惨状が残っている。容赦ない冬将軍の到来。がんばれ能登。

編集後記

新しい年が始まりました。本年もプロバスだよりも皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。 情報委員会

